

会議概要

名 称	令和 7 年度第 1 期第 2 回新潟市公民館運営審議会	
日 時	令和 7 年 10 月 9 日（木）午前 10 時から正午	
場 所	クロスパルにいがた 303 講座室	
出 席 者 (敬称略)	委 員	相澤 雅子、阿部 正機、石田 晶子、井上 経久、倉嶋 和見、 佐藤 敦子、登石 瓦、藤瀬 竜子、渡邊 正友、渡辺 恵 (欠席：0)
	アドバイザー	生涯学習推進課 高橋 宏昌
	事務局	中央公民館長、中央公民館職員、各区基幹公民館長、西地区公民館長
傍 聴	なし	
報 道	なし	
概 要	<p>1 開会</p> <p>2 中央公民館長あいさつ</p> <p>3 議長あいさつ</p> <p>4 報告・議題</p> <p>(1) 新潟市の公民館事業について【報告】 令和 3 ~ 7 年度まで</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事務局より説明 ● 審議委員の意見・質問 ● 家庭教育事業の減少理由を確認したい。 <p>【事務局回答】</p> <p>類似事業を整理したことや、少子化の影響により家庭教育事業数が減った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティ協議会と連携した具体的事業を紹介してほしい。 <p>【事務局回答】</p> <p>南区で開催した伝統芸能や地域活動、コミュニティ協議会と連携した事業について伝えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地区公民館の人員減少により事業数が減っているのではないか。 <p>【事務局回答】</p> <p>職員数に応じて事業数を調整しているが、全体的には例年並みを維持。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和 6 年度の事業数はコロナ前に戻ったのか。 <p>【事務局回答】</p> <p>コロナ禍前の水準にはまだ戻っていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公民館事業は数を減らして内容を充実させるのか、数を維持するのかを明確にしてほしい。 <p>【事務局回答】</p> <p>内容を充実させて、地域・学校・福祉との連携を強化し、現代的課題への取り組みや人づくり・地域づくりを進めていく。</p>	

会議概要

(2) 新潟市公民館の家庭教育について

- 事務局より説明
- (各区館長より) 各区における家庭教育事業の取り組みについて説明
- 審議委員の意見 (討議事項 1)
 - 乳児期 (0 歳児) の家庭教育学級への参加は重要である。保護者への周知が難しい。
 - 保健師・病院・図書館など連携してチラシの配布や掲示など、家庭教育学級を実施していることを目にする場面を増やす。
 - 父親向け講座は母親の協力を得て参加しやすくする工夫が必要。
 - SNS や LINE など多様な媒体で広報すべき。
 - 公民館活動協力員と学校の地域教育コーディネーターの連携を図れるように、公民館は切れ目ない支援をしてほしい。
 - 出産前・就学時など関心が高いタイミングでの情報提供が効果的。
 - 父親の公民館事業の参加と共働き率とは関連性はあるのか。また、父親が参加しやすいような会場の雰囲気づくりを工夫する。
 - 企業や自治会との連携で父親が参加しやすい環境を整えられるとよい。
 - 公民館の存在や事業内容をより広く周知することが大事。

新潟市公民館における乳児期家庭教育学級について (これまでの取り組み)」について

- 事務局より説明
- 審議委員の意見 (討議事項 2)
 - ひとり親家庭も含めた多様な家庭への家庭教育支援が必要。
 - 祖父母と子どもの関係にも注目し、世代間ギャップを埋める情報提供や交流の機会を設ける。
 - 参加対象を「親だけ」に限定せず、「どなたでも」参加できる講座が望ましい。
 - 不登校の子どもや居場所を求める子どもに公民館は目を向け、地域で安心して過ごせる場の提供が必要。

(3) 第3回運営審議会について

- 事務局より開催日を通知

(4) その他

- 各館の事業チラシを案内

(5) 閉会